

子ども・若者の自立と支援

「子ども・若者支援」という課題の登場―

Ikuta Shuji

生田 周二

奈良教育大学 次世代教員養成センター

子ども・若者の自立と支援

ー「子ども・若者支援」という課題の登場ー

奈良教育大学 次世代教員養成センター 生田 周二

この本では、なぜ近年「子ども・若者支援」が必要となっているのか、その背景と取り組みを解き明かします。その際に、「自立」を手がかりにします。

ところで、子どもとは、若者とは何歳頃までなのでしょう。法律により用語が異なっていますが、ここでは、「子ども・若者ビジョン」(2010年、子ども・若者育成支援推進本部決定)を踏まえながら、次のように定義します。

- ・ 子ども……乳幼児期から18歳未満(子どもの権利条約、児童福祉法などに準拠)の者
- ・ 若者……思春期(中学生頃から18歳頃まで)、青年期(18歳頃から30歳未満頃まで)の者。場合によって、ポスト青年期(青年期を過ぎ40歳未満)の者も含む。

1. 「子ども・若者支援」とは？

(1) 概要

子ども・若者支援は、家庭・学校・地域と連携しながら、しかし家庭、学校とは異なった観点から、子ども・若者の自立、つまり「子どもから大人への移行」を支援(支え、援助し、見守る)します。それは、次の側面を持つ取り組みだといえます。

- ・ 子ども・若者の自発性、すなわち思い・関心・願いを踏まえる
- ・ 子ども・若者の自主的・主体的な活動を活性化する
- ・ 「子ども・若者の個人的および社会的成長」のための豊かな場と機会を保障する

より具体的にイメージを持つために、子ども・若者支援の範囲を示しましょう。図1の点線囲みの部分のように、支援の取り組みには、次の2つのアプローチがあります。なお、私の研究グループは、この取り組みの領域が日本でもっと位置づけられるように「第三の領域」としての子ども・若者支援と呼んでいます。

・ユニバーサル・サービス

すべての子ども・若者の主体性・自発性を大切にし、活動や参画の機会の拡充を図る青少年育成的な「ユースワーク (youth work)」

・ターゲット・サービス

不登校、ひきこもり、就労不安など社会から排除されがちな子ども・若者を対象とする青少年福祉的な「ユースソーシャルワーク (youth social work)」

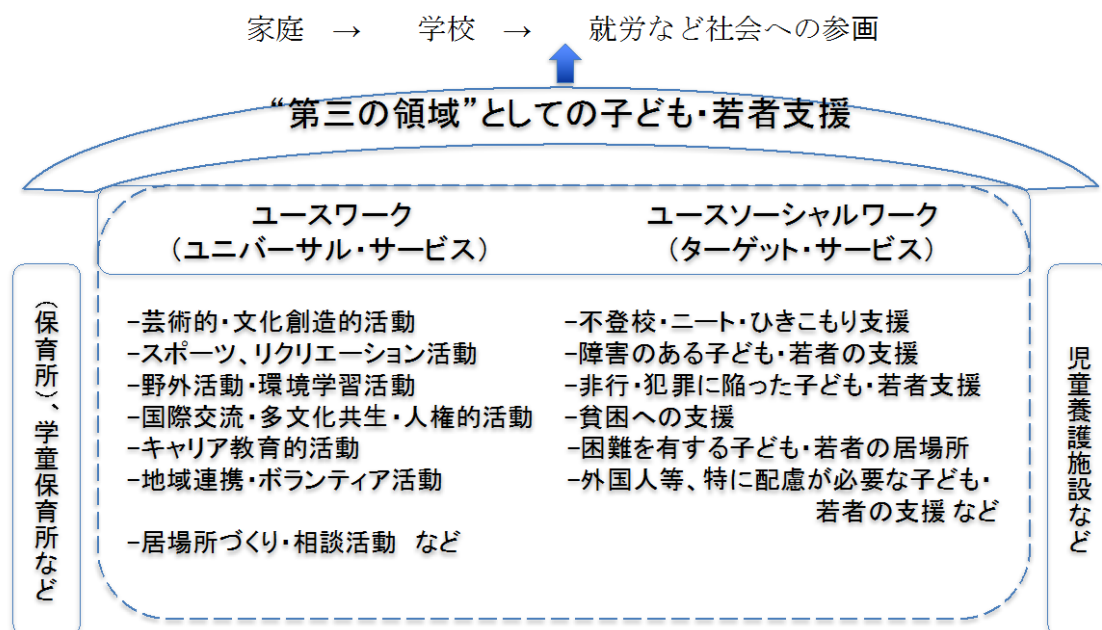


図1 “第三の領域”としての子ども・若者支援の枠組み(試案)

(2) 自分の経験や調べることで理解を深めよう

次の二つのワークを試してみてください。

◎ワーク1：“第三の領域”のユニバーサル・サービスについて考えてみよう

図1のユースワーク領域を参考にして下さい。学校外や地域での取り組みへの参加や施設の利用経験はありますか。また、その時の印象はどうでしょうか。

■団体活動への参加：子ども会、青年団、スポーツ少年団、地域のクラブチームやサークル活動など

■施設利用：児童館、青少年センター、少年自然の家、青年の家など

■その他：地域での取り組み・行事への参加など

◎ワーク2：子ども・若者支援の取り組みについて、ホームページで調べてみましょう。

私の研究プロジェクトに関わっていただいている団体の主な取り組みです。

■ユニバーサルな取り組み・活動

- ・ 京都市ユースサービス協会 (<http://ys-kyoto.org>) ……京都市青少年活動センター7館、ほか
- ・ こうべユースネット (<http://www.kobe-youthnet.jp>) ……神戸市青少年会館ほか3施設、ほか
- ・ よこはまユース (<http://yokohama-youth.jp>) ……横浜市青少年交流センター（ふりーふらっと野毛山）ほか3施設
- ・ さっぽろ青少年女性活動協会 (<http://www.syaa.jp>) ……札幌市若者支援施設“**Youth+**（ユースプラス）”5館、ほか
- ・ 北摂こども文化協会 (<http://hokusetsukodomo.com>) ……（大阪府池田市）子どもの文化活動支援

■ターゲット的な取り組み・活動

- ・ キャリアブリッジ (<http://career-bridge.info>) ……（大阪府豊中市）就労支援
- ・ 山科醍醐こどものひろば (<http://www.kodohiro.com>) ……（京都市山科区）子どもの貧困への取り組み、地域づくり
- ・ 文化学習共同ネットワーク (<http://www.npobunka.net>) ……（東京都三鷹市）不登校・ひきこもり支援、就労支援

- ・ ハートハース (<http://www.geocities.jp/heartearth1994/index.html>) …… (奈良市) 不登校支援
- ・ 自立援助ホームあらんの家 (<http://web1.kcn.jp/arannoie/>) …… (奈良市) 児童養護施設等を退所した若者の自立援助
- ・ アンダンテ農園 (<http://andante-noen.com>) …… (奈良市) ひきこもり・障がい者就労支援
- ・ なら人材育成協会 (<http://www.narajinzai.com/index.html>) …… (奈良県高市郡高取町) 就労支援、居場所づくり

※備考……公益財団法人京都市ユースサービス協会の例

1988年3月に設立され、市内7カ所の「青少年活動センター」を中心に中学生から30歳未満の若者の活動の支援（ユースワーク）をしています。2006年からは、就労支援のため、京都若者サポートステーションを設置し、さらに2010年、子ども・若者育成支援推進法による指定支援機関としての業務を開始し、相談業務を含め、特別な課題に直面した青少年への個別のターゲット・サービスの事業も展開しています。

なお、京都市は『はばたけ未来へ！京都市ユースアクションプラン』を作成し、次のような役割を持った活動を支援しています。

- ・ 自然とふれあう体験や、歴史や文化とかかわる体験及び人と人との交わりを通じた学びの機会を提供する役割
- ・ 子どもから大人への移行を支援する役割
- ・ 青少年のチャレンジ等を支援し、社会の中で成長することを後押しする役割

2. 子ども・若者支援の背景と施策

次に、子ども・若者を取り巻く環境の変化の概要は、次のように整理することができます。

- ・ 1960年代～70年代：高度経済成長のもとで公害の広がりや保育・子育て環境の悪化、受験競争（高石ともや「受験生ブルース」（1968））などにより、子どもから三間（時間、空間、仲間）が奪われ始めているという危機感（黒

坂正文「広場とぼく等と青空と」(1971))が登場します。

- ・ 1980年代～90年代半ば：現在の大学入試センター試験に至る偏差値序列化の傾向が顕著になり、学校における校内暴力、不登校、いじめなどが健在化します(尾崎豊「15の夜」(1983)、「卒業」(1985))。その中で、安心できる「居場所」、子どもの権利と子どもの参画への着目がみられます。
- ・ 1990年代後半～2000年代：学級崩壊、児童虐待、学力低下が問題化し、発達障害への関心も高まります。非正規雇用が勤労者全体の3分の1に達するなど格差と貧困が拡大する中で、ニート、フリーター、ひきこもり(Mr. Children「SUNRISE」(2007))が問題化し今日に至っているといえます。

(1) 背景

「子ども・若者支援」という言葉の背景には、上述の通り、とりわけ2000年以降の子ども・若者を取り巻く状況の変化があります。

たとえば、「子供・若者育成支援推進大綱」(2016年、子ども・若者育成支援推進本部決定)において指摘されているのは、次のような問題状況です。

- ・ 家庭：ひとり親世帯の増加、子どもの貧困、児童虐待など
- ・ 地域社会：近所づきあいの減少、子ども会加入率の減少、地域の見守り機能への期待
- ・ 情報通信環境：SNSを介したいじめ、違法・有害情報の拡散、情報モラル教育の必要性
- ・ 雇用：グローバル化・情報化等による経済社会構造の変化、非正規雇用の増に伴う不安定化、所得減

その上で、とりわけ困難を有する子ども・若者について、「貧困、児童虐待、いじめ、不登校、ニート等の問題が相互に影響し合うなど、様々な問題を複合的に抱え、非常に複雑で多様な状況となっている」ことを踏まえた取り組みを展開しようとしています。

(2) 子ども・若者支援に向けての施策

特に若者雇用問題への包括的な支援策として、2003年から「若者自立・挑戦プラン」が展開し、具体的には特にフリーターの就労を支援する「ジョブ・カ

フェ」(2004年、就職セミナー、企業等での短期体験プログラム、職業相談などを提供)が各都道府県に設置されます。また、「地域若者サポートステーション」(2006年、略称サポステ：学校から社会への移行に困難を抱える若者を対象に就業につながる支援を提供)の開設などにより就労支援が行われます。2010年には「子ども・若者育成支援推進法」、それを具体化した「子ども・若者ビジョン」により、より包括的に若者の自立を支援する社会システムの確立が目指されています。

また、こうした展開とも関連しながら、学校教育ではキャリア教育が展開されており、2011年に中教審答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」が出され、児童・生徒の「社会的・職業的自立」に向けた教育活動の展開が行われています。

3. 自立とは？

最後に、子ども・若者支援の方向目標でもある自立について考えましょう。

(1) 自立について

「自立」については、次の過程だと考えられます。

- ・親を中心に家族など、「信頼できる他者」との関係性を踏まえる……安心感
- ・自己の能力や世界観、主体性を獲得・拡張していく……自信・達成感
- ・自己決定能力を獲得し、自己実現を果たしていく……自由

つまり、親などのとの関係において安心感を基盤にしつつ、そこを巣立っていく力を蓄え、自分の能力を発揮する場と機会を獲得する過程だといえます。

まだ分かりにくいので、具体的に自立にはどういった側面があるのか。それを絵本などを使って考えてみましょう。

A. 基本的ニーズ

『おおきくなるっていうことは』(中川ひろたか・文；村上康成・絵(1999)童心社)では、保育所の年長さん向けに園長先生が話しています。

「おおきくなるっていうことは ようふくが ちいさくなるってこと」から始めて、「おおきくなるっていうことは ちいさなひとに やさしくできる

ってこと」まで、次のような点が含まれています。

- ・身体的成長（服、歯）
- ・運動能力（顔を水に付ける、登る、飛び降りる）
- ・人間関係性（家族の存在、年齢、小さい人へのいたわり）
- ・判断力（泣かなくなる、飛び降りられるかどうか、食べ物、シャンプー）
- ・遊び、興味・関心の広がり

これらは、マズロー（A. H. Maslow, 1908年～1970年）が「ニーズの階層」理論で指摘する「基本的ニーズ」（生理的なニーズ、安心・安全へのニーズ、帰属感と愛情のニーズ）に関連しています。親を始めとする身近な人たちに見守られながら、身体的な成長とともに自然や人と関わる中で関心が広がり、判断力がついてきます。

これらは、次のように整理することができます。

発達の側面 (身体・生活習慣など)	衣食住など人間的な生活を送る上で必要となる生活習慣などの基盤を形成する。また、身体的成長を促す。「生理的なニーズ」、「安心・安全へのニーズ」を充足しつつ、「帰属感と愛情のニーズ」を満たす上で重要となる。
文化的側面 (自己理解・自己管理)	自分が「したいこと」「意義を感じること」「できること」を判断する上で、遊びや余暇など自由な空間・居場所が大切である。「帰属感と愛情のニーズ」の充足と関連している。……自己コントロール、自律、アイデンティティ
社会的側面 (人間関係・社会性形成)	様々な出会いや活動を通しての関係づくり、学校・施設・団体などでの多様な世代との開かれた交流と活動が想定される。「帰属感と愛情のニーズ」や「承認へのニーズ」の充足と関連している。……つながり

B. 成長への動機づけとしてのニーズ

次に、保育所を終え、小学校に入学し進級していく中で、「成長への動機づけとしてのニーズ」（承認へのニーズ、自己実現のニーズ）が大きな役割を果たします。それは、次のようなものです。

- ・勉強する
- ・役割を担う
- ・いろいろな人たちと協力する
- ・家族やネットワークを形成する
- ・仕事をする
- ・責任を果たす
- ・主体的に物事に関わる

これらは、次のように整理することができます。

経済的側面 (能力開発)	学習、職場体験、就労支援などを通じて、キャリアの基礎を形成する。「承認へのニーズ」や「自己実現のニーズ」の充足と関連している。……知る、できる
政治的側面 (意見表明・役割獲得)	自分の考えや意見を踏まえた自己決定ができるようになり、企画や決定への関与、運営などに関わり、役割を果たしつつ他者と協力・協働して活動できる。「自己実現のニーズ」の充足と関連している。……関わる、担う

(2) 自立の5側面

私たちの研究では以上の通り、自立には5つの側面があると整理しています。

また、今回は詳しく紹介できませんが、図2に示すように、自己実現に向けたシステムへの統合と参画を志向する縦軸と、自分を取り巻く自分づくり、関係づくりの横軸があります。

Aの段階は、図2-1の通り、発達・文化・社会の3つの側面が関係しており、Bの段階では学校を代表とするシステムへの関わりによる社会参画への準備(経済的・政治的側面)が行われているといえます(図2-2)。

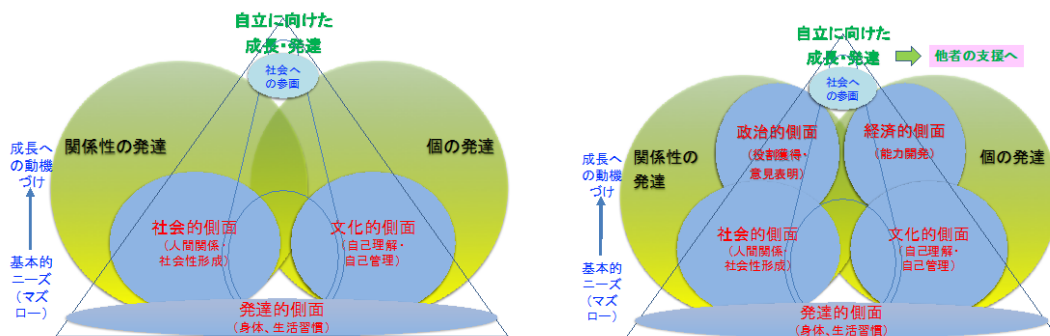
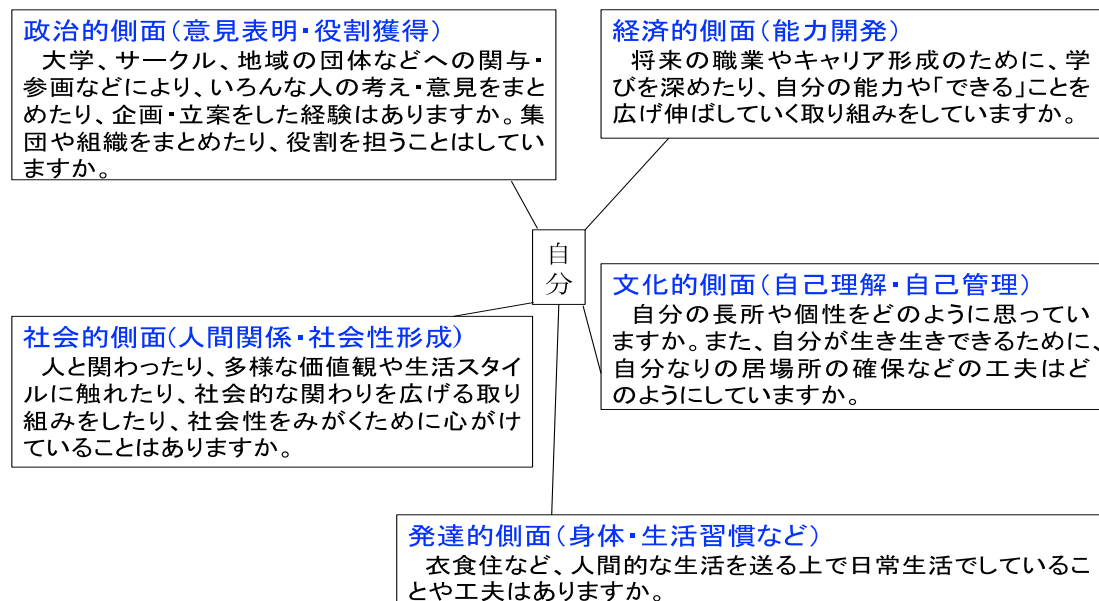


図2-1 子ども・若者自立モデル (A段階) 図2-2 子ども・若者自立モデル (B段階)

(参考：河崎智恵(2011)「ライフキャリア教育における能力領域の構造化とカリキュラムモデルの作成」『キャリア教育研究』29(2), p. 65)

◎ワークシート：「自立の5側面」を参考に自分の体験・経験領域を整理しよう

下記の空欄に、自分の取り組みや課題を整理してみましよう。それぞれどんなことに取り組んでいたり、課題があるかを考えるきっかけにして下さい(奈良教育大学・教養科目「キャリア形成と人権」で活用)。



3. おわりに

以上、私が研究代表をしている「子ども・若者支援専門職養成に関する総合的研究」(日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究B:2013年度~2016年度)の研究成果の一端をお示ししてきました。

日本の子ども・若者支援は、キャリア教育もそうなのですが、自立の「経済的側面」や就業能力(employability)に重点が置かれ、ターゲット・サービスを中心とした取り組みに焦点が当たる傾向があります。こうした状況に対して、「第三の領域」としての子ども・若者支援と「自立の5側面」の提案は、すべての子ども・若者が、社会への参画や自己実現に向けて支援を受ける権利を保障されることが必要ではないかという問題提起です。

ユネスコ「学習権宣言」(1985年)の文言を借りれば、参画や自己実現は、子ども・若者一人ひとりが尊重され、「自分自身の世界を読みとり、歴史をつづる」こと、「自らの歴史をつくる主体」となっていくことにつながると考えています。そして、「すべての人間が個人として、集団として、さらに人類全体として、自らの運命を自ら統御すること」が、持続可能な社会づくりにつながるということでもあります。

ドイツやイギリスでは、社会教育学やユースワークの研究分野において、この研究が進んでおり、また“第三の領域”として子ども・若者支援を担当す

る専門職が存在しています。特にドイツでは、子ども・若者支援が27歳までの若者の権利であると法律で明記されています。

こうした動向も見据えながら、先にも述べた通り、30歳頃までの若者の権利として自立支援が行われることが人格の完成と社会の形成にとって重要ではないかと思っています。関心のある方は、下記の文献を読んでみて下さい。

- ◎ 生田周二・大串隆吉・吉岡真佐樹(2011)『青少年育成・援助と教育—ドイツ社会教育の歴史, 活動, 専門性に学ぶ—』有信堂
- ◎ 上杉孝實・小木美代子監修(2009)『未来を拓く子どもの社会教育』学文社
- ◎ 柴野昌山(2009)『青少年・若者の自立支援』世界思想社
- ◎ 宮本みち子編(2015)『すべての若者が生きられる未来を—家族・教育・仕事からの排除に抗して—』岩波書店

生田 周二 (Shuji Ikuta)

1986年 京都大学大学院 教育学研究科 博士後期課程
学修認定退学 (教育学修士)
1989年 鳥取大学 教育学部 講師
1992年 同大学 助教授
1999年 奈良教育大学 准教授
2002年 同大学 教授



【研究テーマ】

専門は、人権教育・社会教育です。子ども・若者の教育・文化・福祉に関する権利保障という観点から調査、研究を行い、「子ども・若者支援専門職養成研究所」の代表をしています。主な著書は、以下の通りです。

- ・生田周二・大串隆吉・吉岡真佐樹(2011)『青少年育成・援助と教育—ドイツ社会教育の歴史、活動、専門性に学ぶ—』有信堂
- ・生田周二(2007)『人権と教育—人権教育の国際的動向と日本的性格—』部落問題研究所

【著者の自己紹介】

—今の研究分野を選択したきっかけ

社会教育という分野への関心は、稲葉峯雄(1973)『草の根に生きる』(岩波新書)という本を読んで、学校とは異なる分野に興味を持ちました。青年期への興味は、マーガレット・ミード(1980)『サモアの思春期』(蒼樹書房)で、青年期がほとんどない社会の存在に興味深かったです。人権とその教育への関心は、エーリヒ・フロム(1965)『自由からの逃走』(東京創元社)でした。そこからドイツのナチス期や戦後の教育にも興味がわきました。

子ども・若者の自立と支援

－「子ども・若者支援」という課題の登場－

著者 いくた しゅうじ 生田 周二

2017年3月31日 第1版

奈良教育大学出版会

〒630-8528

奈良市高畑町

TEL: 0742 (27) 9135 FAX: 0742 (27) 9147

E-mail: g-kenkyu@nara-edu.ac.jp

URL: <http://www.nara-edu.ac.jp/PRESS/>